

整理番号: EP0211

発送番号: 356830

発送日: 平成17年10月 3日

1

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2002-133732
起案日	平成17年 9月21日
特許庁審査官	金田 孝之 3144 5V00
特許出願人代理人	細田 益稔 様
適用条文	第29条第2項、第36条、第37条、第39条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。
2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内において頒布された下記の刊行物1-3に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。
3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願日前の下記の出願4に係る発明と同一であるから、特許法第39条第1項の規定により特許を受けることができない。
4. この出願は、明細書及び図面の記載が下記(1)-(6)の点で、特許法第36条第4項及び第6項に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

[理由1]

請求項2に記載される発明と請求項3-6に記載される各発明に共通する課題は、色変換テーブルによる平滑化の程度を評価することであるが、この課題は、本願出願前に解決されており(例えば、引用文献1等参照)、本願出願時未解決の課題ではないから、各発明は特許法第37条第1号の関係を満たさない。

また、上記各発明に共通する解決しようとする課題に対応した発明特定事項である平滑化程度評価関数は、文献を示すまでもなく本願出願前に周知の技術であ

BEST AVAILABLE COPY

整理番号: EP0211 送番号: 356830 送日: 平成17年10月 3日 2

るから、解決しようとする課題に対応した新規な発明特定事項である主要部が存在せず、上記各発明は、特許法第37条第2号の関係を満たさない。

さらに、上記各発明は、特許法第37条第3号、第4号、第5号に規定する他のいずれの関係も満たさない。

なお、この出願は特許法第37条の規定に違反しているが、請求項1-2、7-9以外の請求項に係る発明についても、格別の負担なく審査することができたので、新規性、進歩性等の要件についての審査を行った。

[理由2]

・請求項1-9

引用文献1-3

(備考) 引用文献1 (段落20-24参照)、引用文献2 (第8頁第7行-第9頁第18行参照)、引用文献3 (段落20-37参照) には、それぞれ、色補正テーブルによる色変換後の格子点データにおける平滑化の程度を評価するための関数を用いて色補正テーブルを求める発明が記載されている。

[理由3]

・請求項1-9

特許出願4 (請求項1、3-4、6) には、本願各請求項に記載の発明と同一の発明が記載されている。

[理由4]

(1) 請求項1に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との対応も不明である。

- ・CMY空間「等」との記載からは、発明の範囲が不明確である。
- ・平滑化がどの様にして行われるかが分からない。
- ・平滑化の程度とは、どの様な指標であるかが分からない。また、どの様にして平滑化の程度が評価されるかも分からない。
- ・色補正テーブルは、平滑化程度評価関数がどの様に用いられて、作成されるのかが不明である。

(2) 上記(1)で指摘した点については、請求項2、7-9に係る発明の記載についても同様である。

(3) 請求項3に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との対応も不明である。

- ・CMY空間「等」との記載からは、発明の範囲が不明確である。
- ・ねじれ量がどの様にして求められるかが不明確である。

整理番号: EP0211

発送番号: 356830

発送日: 平成17年10月 3日

3/E

- ・ねじれ量からどの様にして評価関数が得られるかが不明である。
- ・請求項3に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

(4) 請求項4に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との対応も不明である。

- ・目的のCMY値とは、どの様な色値であるかが不明である。
- ・目的のCMY値と何の離れ程度を評価するかが不明である。
- ・離れ程度からどの様にして評価関数を求めるかが不明である。
- ・請求項4に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

(5) 当該技術分野において8ビットで表現可能な色値である255を越えないように制御することは、慣用技術である。してみると、請求項5に係る発明の評価関数から、どの様にして平滑化の程度が評価するかが分からない。

(6) 請求項6に記載の負のインク量は、どの様にして実施できるかが分からない。

また、当該技術分野において色値が負にならないように制御することは、慣用技術である。してみると、請求項6に係る発明の評価関数から、どの様にして平滑化の程度が評価するかが分からない。

引用文献等一覧

1. 特開平6-253139号公報 ✓
2. 特表平9-509295号公報 ✓
3. 特開平6-225131号公報 ✓
4. 特願2002-2061号 (特開2003-204443号公報)

先行技術文献調査結果の記録

調査した分野 H04N 1/40-1/409
 H04N 1/46-1/64

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

BEST AVAILABLE COPY